

鳥取県地震

2023年（令和5年）8月

鳥取地方気象台

目次

(1) 鳥取県とその周辺の地震活動	
震央分布図及び断面図、概況	1
震源リスト（M2.0以上）	1
(2) 鳥取県内で震度1以上を観測した地震	
震度のリスト	2
震度分布図	2
(3) 地震・津波の知識	
緊急地震速報の改善について	4

- 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。

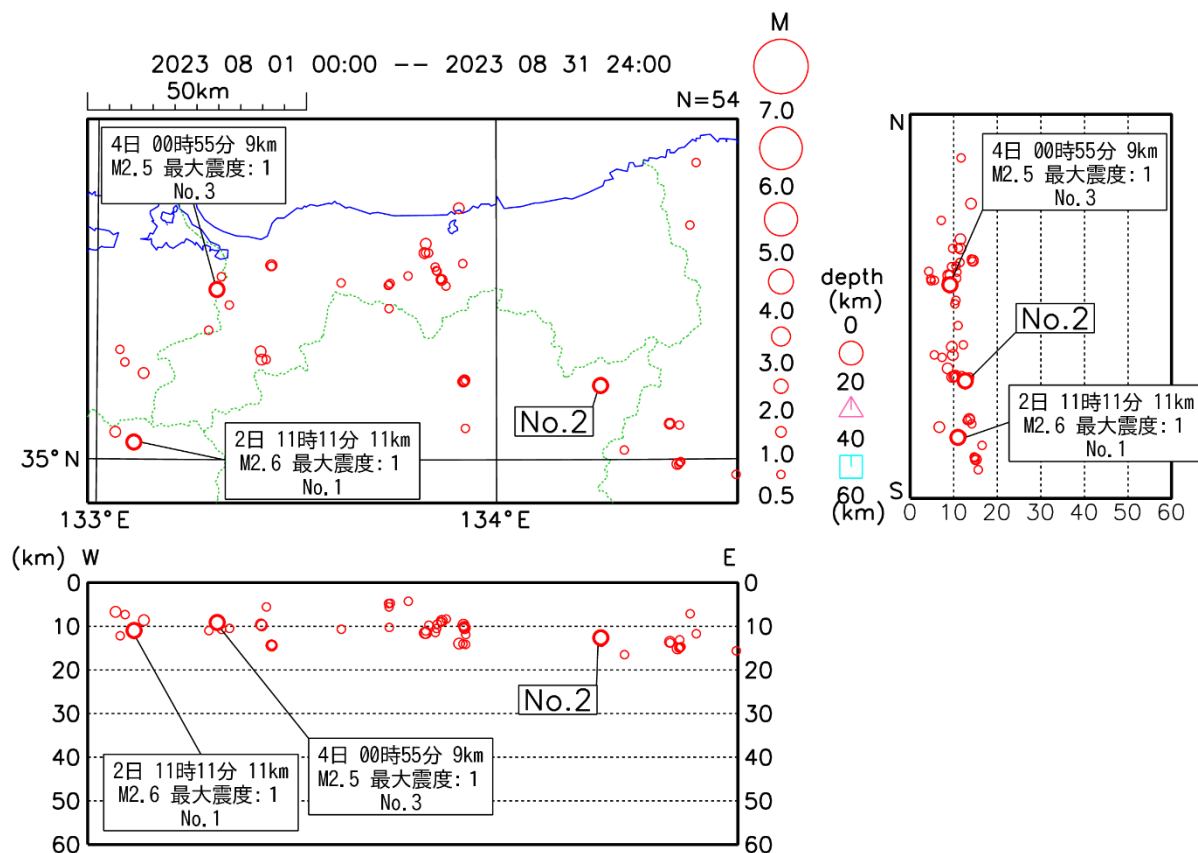
また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。

- 本資料の地震の震源要素、震度データ及び発震機構解等は再調査された後、修正されることがある。

* 広域の地震については、大阪管区気象台作成の「大阪管内地震活動図」をご覧ください。
大阪管内地震活動図URL <https://www.jma-net.go.jp/osaka/jishinkazan/kanindex.html>

(1) 鳥取県とその周辺の地震活動

[震央分布図・断面図]



[概 況]

2023年8月に鳥取県内の震度観測点で震度1以上を観測した地震は2回（前月は1回）でした。

4日00時55分 島根県東部の地震（深さ9km、M2.5）により、鳥取県南部町で震度1を観測しました。

26日22時29分 周防灘の地震（深さ74km、M4.6：地図範囲外）により、広島県大竹市・江田島市、山口県下関市・上関町・下松市で震度3を観測したほか、近畿・中国・四国・九州地方にかけて震度2～1を観測しました。鳥取県内では鳥取市で震度1を観測しています。

上記震央分布図内において、M2.0以上の地震は3回（前月は2回）でした（番号は震源リストに対応）。

なお、2日11時11分に発生した地震（上図のNo.1）は広島県でのみ震度が観測されています。

[震源リスト(震央分布図内のM2.0以上の震源リスト)]

期間 : 2023年8月1日00時00分～2023年8月31日24時00分

緯度 : 34° 55' ～35° 45' N 経度 : 133° 00' ～134° 40' E

深さ : 0 km～60 km

No.	発震時(年 月 日 時 分)	震央地名	北緯	東経	深さ(km)	マグニ チュード	最大 震度
1	2023年08月02日11時11分	広島県北部	35° 2.1' N	133° 5.5' E	11	2.6	1
2	2023年08月03日23時28分	岡山県北部	35° 9.1' N	134° 15.6' E	13	2.2	-
3	2023年08月04日00時55分	島根県東部	35° 20.9' N	133° 17.9' E	9	2.5	1

(2) 鳥取県内で震度1以上を観測した地震

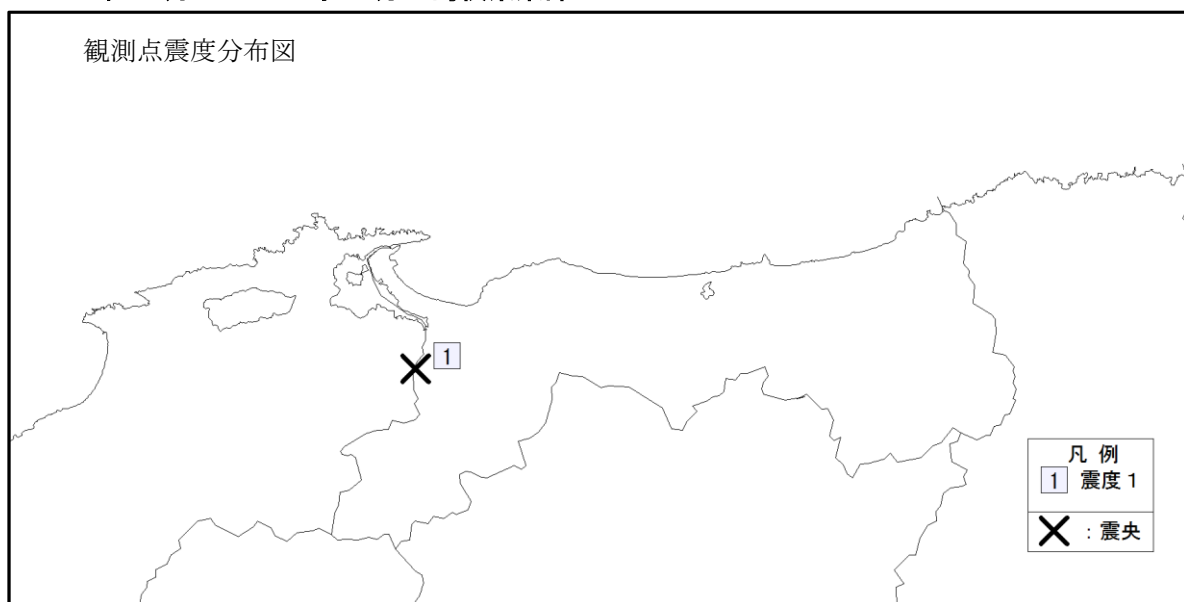
[鳥取県内で震度1以上を観測した地震及び震度のリスト]

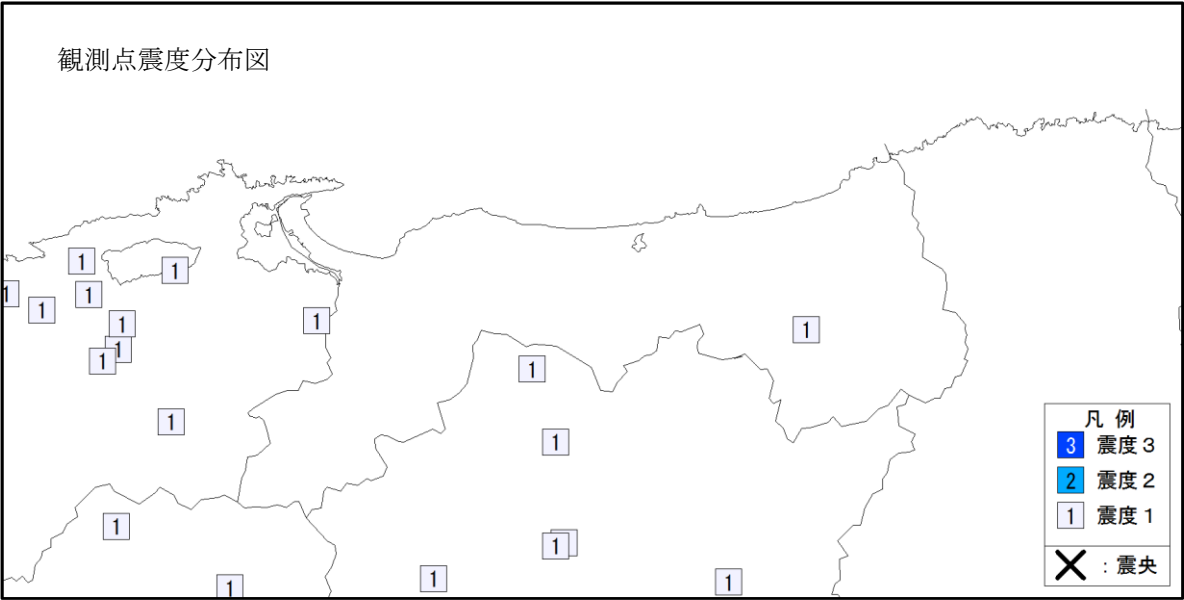
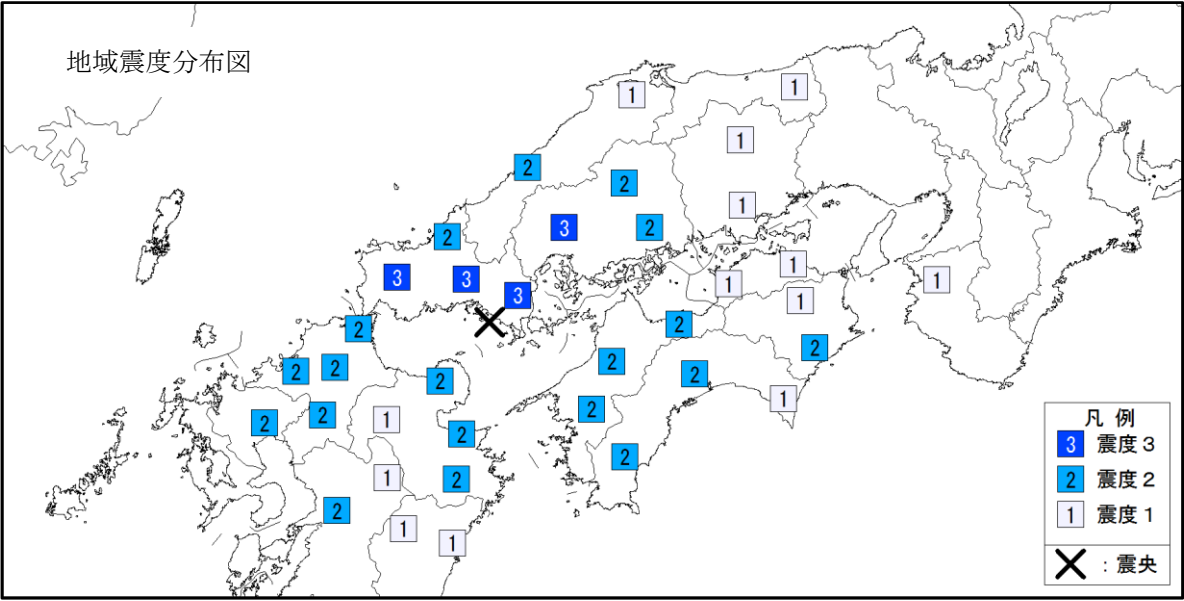
発震時 (年 月 日 時 分)	震央地名	北緯	東経	深さ	マグニチュード
2023 年 08 月 04 日 00 時 55 分	島根県東部	35 ° 20.9' N	133 ° 17.9' E	9km	M2.5
----- 地点震度 -----					
鳥取県 震度 1 : 鳥取南部町天萬*					
2023 年 08 月 26 日 22 時 29 分	周防灘	33 ° 55.5' N	131 ° 53.2' E	74km	M4.6
----- 地点震度 -----					
鳥取県 震度 1 : 鳥取市用瀬町用瀬*					

・*印のついている地点は、鳥取県または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

[鳥取県内で震度1以上を観測した地震の震度分布図 (図中×は震央)]

2023 年 08 月 04 日 00 時 55 分 島根県東部





(3) 地震・津波の知識

緊急地震速報の改善について

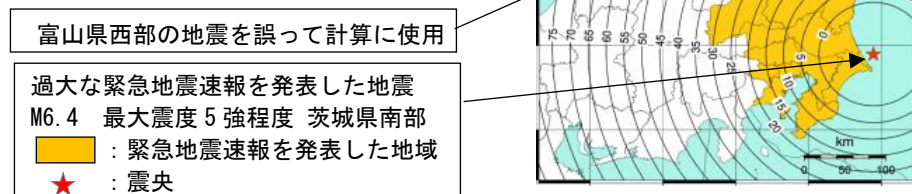
令和5年9月26日より緊急地震速報の揺れの過大予測の低減を図ります

緊急地震速報は、震源に近い地震計でとらえたデータを素早く解析することで震源や地震の規模（マグニチュード）を推定し、揺れの強さや到達時間を予測して強い揺れが来ることを迅速にお知らせする情報です。

これまで緊急地震速報の処理において、離れた場所で同時に複数の地震が発生した場合に同一の地震であるか否かの判定を誤って処理した結果、揺れを過大予測してしまう課題がありました。この対応として気象庁では令和5年9月26日より緊急地震速報の震源の推定手法について、従来の IPF 法を含めた複数の手法の併用から、改良を加えた IPF 法に一本化し、揺れの過大予測の低減を図ることとしました。

(改善前)：揺れを過大予測した事例の一例

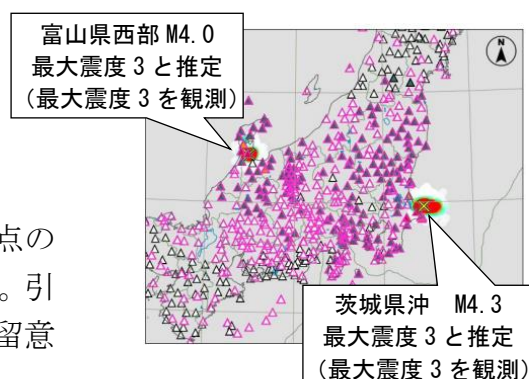
2018年1月5日の茨城県沖と富山県西部で地震が同時発生した際に、同一地震判定の誤りによってマグニチュード(M)が過大となった結果、予測震度が過大な緊急地震速報(警報)を発表しました。



(改善後)

右図は、改良を加えた IPF 法の検証結果です。上記の地震においてそれぞれの地震を分離しマグニチュードも予測震度も適切に推定して発表できることを確認しました。

緊急地震速報は、地震発生後に短時間で限られた観測点のデータを用いるため、精度が十分でない場合があります。引き続き「緊急地震速報の特性や限界、利用上の注意」に留意していただき、日ごろからの備えをお願いします。



◆ 緊急地震速報の改善点の詳細は気象庁報道発表資料でご確認いただけます。

https://www.jma.go.jp/jma/press/2308/29a/EEW_kaizen_202308.html

そのほかの地震活動の詳細については、気象庁ホームページまたは『令和5年8月地震・火山月報（防災編）』をご覧ください。

U R L <https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/gaikyo/>

問い合わせ先：鳥取地方気象台

TEL：0857－29－1313